

病害虫発生予察指導情報

(果樹全般・カメムシ類 No. 1 1)

令和2年8月7日
鳥取県病害虫防除所

1. 情報の内容

果樹カメムシ類の発生量は依然としてやや多くなっています。収穫が近づいており、袋上からの加害も増える時期になります。ほ場の観察を徹底するとともに計画的な防除をお願いします。

2. 情報の根拠

- (1) 8月第1半旬現在、県予察ほ場（河原試験場）の予察灯におけるチャバネアオカメムシ、クサギカメムシの誘殺数は平年に比べてやや多い（図1）。
- (2) 8月第1半旬現在、県予察ほ場（園芸試験場）の集合フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数は平年に比べてやや多い（図2）。
- (3) 8月第1半旬現在、園芸試験場の防風樹であるサンゴジュにおけるカメムシ類の100果そう当たりの飛来数は、1.0頭（平年：1.9頭）と平年並である。
- (4) 7月下旬以降、一部の果樹園でカメムシ類に加害された果実被害が認められている。
- (5) 向こう1か月の気象予報は、カメムシ類の加害活動に好適な条件である。

3. 防除上注意すべき事項

- (1) カメムシ類の被害や飛来状況は、ほ場間差が大きいいため、園内外をこまめに見回り早期発見に努め、被害果実やカメムシ類の発生が多い場合は早急に防除を行う（ネオニコチノイド系又は合成ピレスロイド系殺虫剤のいずれかを選択）。特に、過去の多発年に早期被害を受けた地域では注意する。
- (2) 防除は、カメムシ類が飛来する夕方か早朝が効果的である。ただし、薬剤が乾きにくい気象条件の時は薬害が発生しやすいため夕方散布を実施しない。また、カメムシ類は移動性が高いため、広域的な防除に努める。
- (3) 合成ピレスロイド系殺虫剤の多用は、カイガラムシ類及びハダニ類の発生を助長した事例があるので、必要最小限の使用にとどめる。
- (4) ナシでは、シペルメトリン水和剤（イカズチWDG 1，500倍液又はアグロスリン水和剤 2，000倍液）、テルスターフロアブル3，000倍液などを使用し、収穫前の防除を徹底する。なお、これらの剤はシンクイムシ類に対する効果も高い。
- (5) 各樹種の防除薬剤は表を参考とする。また、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守る。

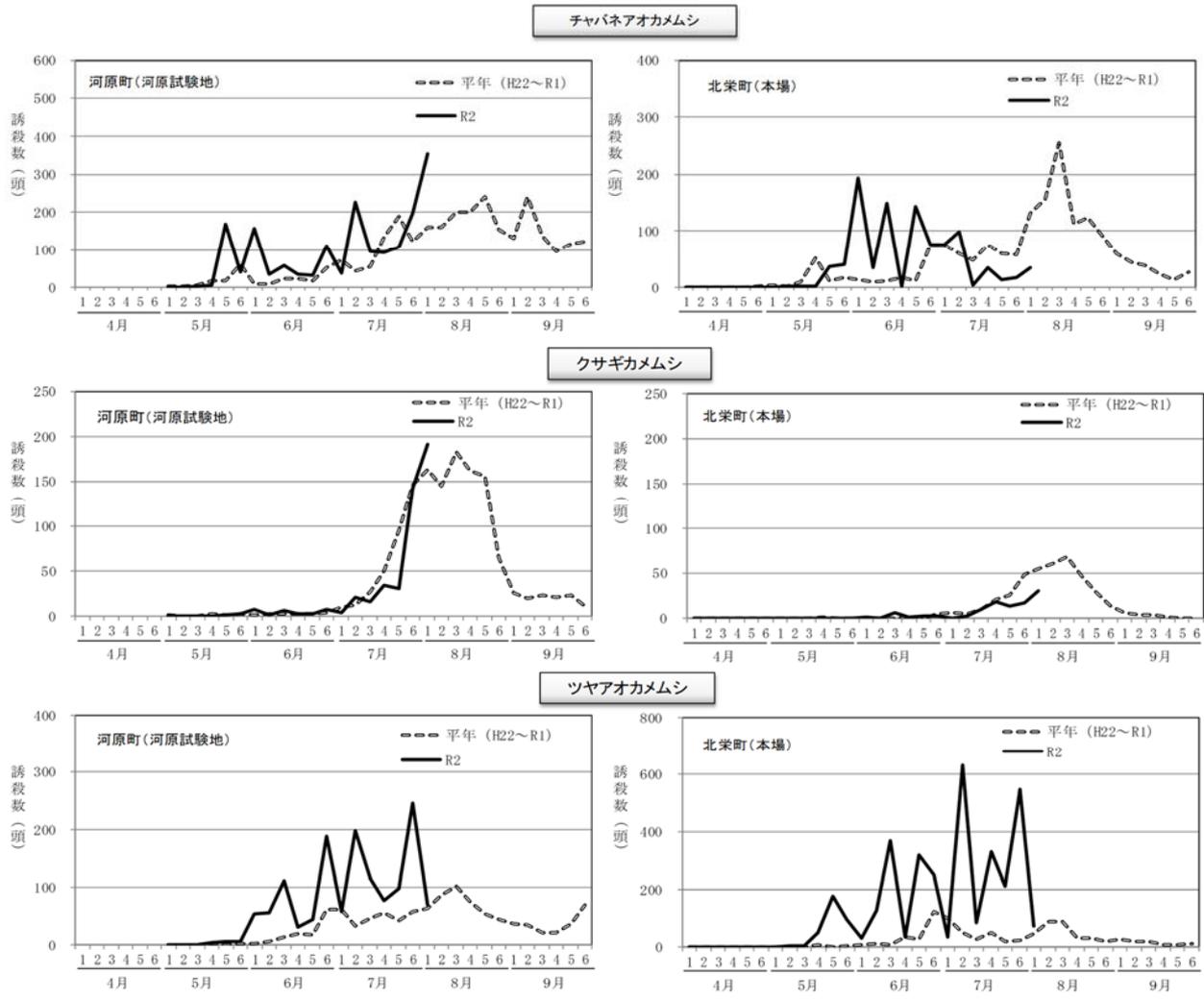


図1 予察灯におけるカメムシ類の誘殺数

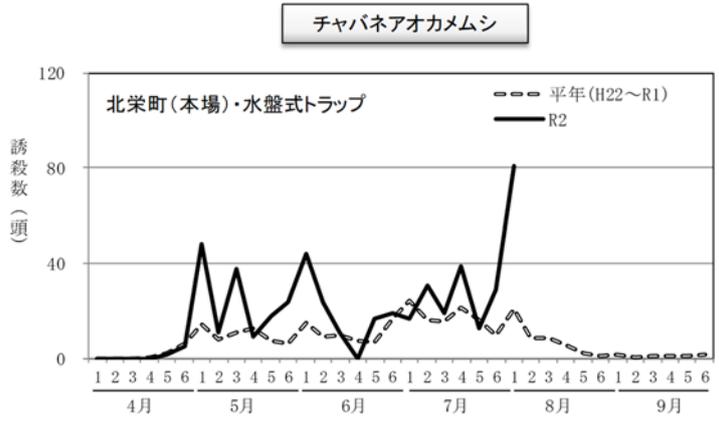


図2 集合フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数

表 果樹カメムシ類の主な防除薬剤と使用基準*

作物	薬剤名	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用回数	IRAC コード**	薬剤の系統
なし	ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	4A	ネコチノイド系
	アクタラ顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日まで	3回以内		
	シペルメトリン水和剤 (アグロスリン水和剤)	1,000倍～ 2,000倍	収穫前日まで	3回以内	3A	合成ピレストイド系
	シペルメトリン水和剤 (イカズチWDG)	1,500倍	収穫前日まで			
	テルスターフロアブル	3,000倍～ 6,000倍	収穫前日まで	2回以内		
かき	ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	4A	ネコチノイド系
	アクタラ顆粒水溶剤	2,000倍	収穫3日前まで	3回以内		
	アグロスリン水和剤	1,000倍～ 2,000倍	収穫前日まで	3回以内	3A	合成ピレストイド系
	キラップフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内	2B	フェニルピラゾール系
ぶどう	ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	4A	ネコチノイド系
りんご	ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	4A	ネコチノイド系
	MR. ジョーカー水和剤	2,000倍	収穫14日前まで	2回以内	3A	合成ピレストイド系

*農薬の登録内容は令和2年度7月末現在

**IRAC コードは殺虫剤の作用機構の分類を示す。

(お問合せ先) 鳥取県病害虫防除所 (鳥取県園芸試験場内、TEL : 0858-37-4211)



この情報は、鳥取県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、<http://www.jppn.ne.jp/tottori/> です。

ホームページ2次元コード